

平成27年度 事業報告

平成27年度 事業報告書

政府に於いては、訪日外国人旅行者「2000万人時代」の早期実現への備えと地方創生への貢献、観光を日本の基幹産業へを政府一丸となって取り組むため昨年6月、観光立国推進閣僚会議において「観光立国実現に向けたアクションプログラム2015」が決定された。①インバウンド新時代に向けた戦略的取組、②観光旅行消費の一層の拡大、幅広い産業の観光関連産業としての取り込み、観光産業の強化、③地方創生に資する観光地域づくり、国内観光の振興、④先手を打っての攻めの受入環境整備、⑤外国人ビジネス客等の積極的な取り込み、質の高い観光交流、⑥リオデジャネイロ大会後、2020年オリンピック・パラリンピック及びその後を見据えた観光振興の加速、の6つの重点事項が示された。

取り分け訪日外客（インバウンド）数は円安の継続、ビザ規制緩和、消費税免税制度の拡充、訪日プロモーション、航空ネットワークの拡大等官民挙げての諸施策により、2015暦年では前年比47.1%増の1973万7千人*と3年連続で最高を更新した。一方、日本人の海外旅行者（アウトバウンド）数は円安外貨高により価格メリットが薄れ前年比4.1%減の1621万2千人*となり1970年以来45年ぶりにインバウンドがアウトバウンドを上回った。（*出典 JNTO）

国内観光に於いて昨年3月の北陸新幹線開業や7月の軍艦島を始めとする明治日本の産業革命遺産が世界文化遺産に登録されたことから金沢、長崎など地方が脚光を浴び地域の観光産業にとって、明るいニュースが続いた年であった。

このような行政ならびに観光産業界の動きによって、真に観光の時代の到来との認識のもと当協会としてはまさに力を結集し、日本の観光に役に立ち、会員の役にも立つ活動内容を創造して人材や費用等の問題点の解決策を策定し広報対策まで一貫して総合的に決定する委員会、創造委員会を立ち上げ協会活動が会員企業ならびに社会に対して価値の創造につながる CSV(Creating Shared Value)的活動の一助となるよう、会員が保有する知見を活かして義務でなく参加する協会活動を目指した。

その成果を国際ホテル・レストラン・ショー2016（会場：東京ビッグサイト）での協会特設ブースにおいて、テーマを「日本のこころ」として技術者集団ならではの展示をおこない協会活動を広く社会に広報した。

このように、多様な観光交流空間を視野に入れた領域の調査・研究・提言、評価に事業の幅を広げ、観光関係の公益社団法人として観光交流空間のハード分野の側面を担いつつ、わが国の観光業の発展に努めている。

平成27年度はこうしたことをもとにして公益社団法人として主に下記の活動を行った。

1. 技術委員会・各分科会の事業活動については、

- (1) 長野県環境保全協会と温泉旅館のエネルギー消費の実態を検証しエネルギーの使い方を提案実践する『地域エコ・小』活動推進コンソーシアム事業を今年度も推進した。
- (2) 一泊型からの旅の構造を変えて地域が滞在型観光地として変革することの必要性と、

そのための要件について研究したことを踏まえ、「人は、なぜ旅をするのか?」を原点から掘り起し、現状のデータを読み取りながら、映像「旅するところ 2016」を制作しこれからの観光について提案した。

- (3) 会員企業の多くが関心のある自然材料の木材を利用して、「木の力」によるおもてなしと題して木の循環利用システムに着目し観光と結びつけた木の美蓄による観光木道について研究を行い、纏めとしてホテルショーで展示発表した。
- (4) 日本の伝統工芸をインテリアデザインに生かし新しいブランドに高めることを目指し鉄工所、金網工房、竹細工工房を訪問し意見交換をおこなった。
2. 技術委員会の活動で得られた観光交流空間に関する情報を技術の見地から外部出版社の発行する情報誌に観光施設メディアラボと題して連載を開始した。
3. 広報委員会は、情報誌「観光施設」を年間4回発行してその内容の充実を図った。
ホームページを刷新し閲覧度を高めるべく、より効果的に情報伝達することに努め、内容の充実とともに、広く観光界及び関連分野にむけて協会活動のPRを行った。
4. 事業委員会及び交流部会各部会においては、施設見学会・セミナー等を実施し、最新の観光施設に関連した内容を会員ならびに一般に紹介した。
5. 各委員会・分科会・部会活動の連携と調整を図るため、合同の会議を行った。
6. 建築・設備・インテリアの3部会から成る「交流部会」を中心に、会員相互の情報交流を深めた。
7. 第44回国際ホテル・レストラン・ショーについては、フード・ケータリングショーおよび厨房設備機器展と併せて3展合同開催を実施した。当協会としては『総合テーマ：日本のところ』と銘打って①匠のところ②旅するところ③木づかいのところ④エコ・小のころの4つの個別チームによる展示と中央オープンステージでの数多くのセミナーに加え特設会場でのホスピタリティデザインセミナーではホテル・旅館の開発&デザインー最新潮流ーを開催し来場者の関心を集めた。
昨年に引き続き、今年度エコ・小推進活動により著しい成果が得られた施設へのエコ・小認定書の授与を行った。
8. 総務委員会は、協会の活動内容を「協会だより」としてとりまとめ、会員に送付した。